

つかいぼう通信 第70号

編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4番1 パセール長良1F3号

Tel 058-215-7374 / Fax 058-296-5343

発行／2011年 4月20日



※第23回大カルタ取り大会の風景／ふれ愛ドーム 2011.3.27

みんなで出来る事からまず動きましょう!!!

東日本(東北関東)大震災障害者救援本部

活動協力のお願い

このたびの東北・東日本大震災の被害に遭われた方々へ心からお見舞い申し上げます。皆様のご無事と一日も早い復旧復興をお祈りいたします。被災障害者支援のための義援金のご協力をよろしくお願い致します。

今回の大地震で被害にあわれた皆様、ご家族・関係者の皆様の事を思うとき、大変心が痛みます。被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

この大震災に関しては甚大な被害の状況が刻々と報じられています。障害を持つ人が必要な支援を受けて、避難できているのか、避難所で暮らせるのか、大変な問題を抱えています。私たちは、大至急かつ継続的に、被災された障害者の人々に対する必要な支援をすべきであると考え、このたび、『東北関東大震災(東北地方太平洋沖地震)障害者救援本部』を立ち上げました。

今後、他のさまざまな団体と協力しながら、私たちができるすべての支援を全力尽くして行きます。私たちには阪神淡路大震災の被災経験や支援の経験があります。そして、重度障害者が地域で自立生活をするために作り上げた全国のネットワークがあります。これらを活かし、あらゆる力を合わせて、有効な活動を展開していきましょう。

皆で力を合わせて、国内外からの支援をお願いします。

2011年3月17日
(救援本部から)

【代表】 中西正司 (DPI 日本会議常任委員、全国自立生活センター協議会常任委員)

【副代表】 牧口一三 (ゆめ風基金)

【呼びかけ人】

DPI 日本会議 : 三澤了、尾上浩二、奥山幸博、八柳卓史

全国自立生活センター協議会(JIL) : 長位鈴子、平下耕三、佐藤聡

東京都自立生活協議会(TIL) : 横山晃久、野口俊彦、今村登

ゆめ風基金 : 楠 敏雄、福永年久

共同連 : 松葉作治

地域団体 : 江戸徹(AJU 自立の家)、廉田俊二(メインストリーム協会)

障害者権利条約批准・インクルーシブ教育推進ネットワーク : 北村小夜、青海恵子、徳田茂

救援本部の専用口座が開設されました 支援金の寄付はこちら

郵便振替口座 00140-7-429771

東北関東大震災障害者救援プロジェクト

銀行振込の場合は

ゆうちょ銀行 店番019(ゼロイチキュウ) 当座 0429771

クレジットカード決済専用のアカウントはこちら

<http://www.j-payment.co.jp/lan/bokin/dpijp.html?1>

(1,000円からの寄付が可能です) 現在、物資による寄付は受付けておりません

付金控除をご希望される個人・法人の皆様は下記2つのお振込先のどちらかをご利用ください

○郵便振替口座 00110-2-47127 DPI 日本会議 ※ 通信欄に「障害者支援金」と明記してください。後日、寄付金領収書をお送りいたしますので、住所と氏名を必ずご記入ください。

○銀行口座 三菱東京UFJ銀行 神田支店 普通口座 1187475

特定非営利活動法人ディーピーアイ日本会議理事三澤了 トビデオピーアイホカイトリジミサトル

※ ご送金後、「寄付金申込書」ダウンロードし、DPI 日本会議事務局までお送りください。DPI 日本会議は、『認定NPO法人』を取得しているため、税制上の優遇措置を受けることができます。

支援金の用途(例)

- ・ 避難所生活困難者(重度障害者等)の住まい及び介助者の確保、育成支援等
- ・ 医療器具、医薬品等 ・ 生理用品、紙おむつ等 ・ 物資輸送費
- ・ 本部及び現地支援センター運営経費 ・ 燃料代等

救援本部特設サイト <http://shinsai-syougaisya.blogspot.com/>

東京事務局 全国自立生活センター協議会(JIL)内

TEL 042-631-6620 東京都八王子市神明4-11-11-1F

大阪事務局 NPO法人 ゆめ風基金

TEL 06-6324-7702 大阪府大阪市東淀川区東中島1-14-1

作業所建設

前回の通信でお知らせしたように、2月17日、黒野の「げんきや」にお邪魔しました。

「げんきや」は作業所建設予定地のすぐ近くにあり、月に一回地域の高齢の方が集まり手芸や食事、お出かけ等を一緒に楽しんでおられます。家に呼びかけの張り紙をするうちに少しずつ参加される方が増えてゆき、今は集まる日を増やす計画もあるようです。近くにこんな素晴らしい所があり移転するのが楽しみです。当日は10人くらいの地域の高齢の方や障害を持つ人そのご家族が集まって見えました。つかいぼうからは吉田と後藤とヘルパーの伴さんがお伺いし、「つかいぼうの事と障害者の働く場の事」「自立生活のこと」を20分くらいずつ話し後は食事をしながらの交流となりました。作業所で作るキャンドルを少し持っていきましたが、関心を持ってくださり、移転したら一緒にキャンドル作りをすることを約束して来ました。今は月一回の集まりですが参加される方たちには生活の励みになっていて、昔自分達がつかいぼうを始めたころの事を思い出しました。誰もが気軽に集まる事が出来て自分の居場所が見つけれれる、開かれた場のある事の大切さを思いました。

作業所が出来たら今度はこちらが招待する事、そこで仲間を紹介したい事などを話しました。また新設する施設では仕事がないかと聞かれたりボランティアの申し出などがありました。ちょうどバレンタイン・デーが終わった頃でバレンタインの事も話題になりましたが、どの方も若々しくお元気でとても楽しい時間を過ごさせていただきました。

さて作業所の建設ですが、1月に入って市役所から「施設建設の国庫補助が社会福祉法人だけでなくNPO法人や株式会社等にも対象が拡大した、急な日程になるがつかいぼうも申請できるが。」との連絡を頂きました。申請はかなり大変な作業である事、就労の場の新設に対する補助はグループホーム等と比べると可能性が低い事、期限までが短く事務作業が大変な事、かなりハードルが高い事、申請をすると建設が更に半年ほど遅れ狭いヴァリエーションの中での仲間の精神的な負担と仕事の制約で工賃が下がる事が更に続く事等で申請すべきかどうか迷ったのですが、仲間達からの「建設が延期になっても良い」という言葉と補助の額が4分の3以上という大きさに目が眩んで、申請することにしました。どう頑張っても補助額ほどの大金は簡単に稼ぎ出せないし、そのお金があれば何より次に必要な「生活の場」作りに回すことが出来るからです。

申請の書類作りはなかなか大変でしたが、作ることで自分達の目標がよりはっきりしました。また添付の書類に町内会の同意書と言うものがあり、これを提出する事も更になかなかでありました。色々と考えさせられる事満載でしたが、多くの方がとても熱心に協力してくださり多くの方に支えられている事を実感しました。心より感謝しています。この場を借りてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。書類は無事整い市役所に提出しました。3月24日に東海ブロックの補助協議がありそこで市の担当者が説明を下さるのですが直前まで新しく作る施設や法人についての聞き取りがありました。後日「申請者が多かったがNPOはブロック内で1、2事箇所だった。6月に内示が出る予定であったが震災の関係で遅れるであろう」と報告を頂きました。23年度内に完成予定ですが、建築資材の不足や高騰で当初の予定通りにはいかないようです。

障がい者における『外出・移動ニーズ』の拡充を考える事業報告会

岐阜市市民活動支援事業補助対象事業としては3年目で今年が最後の報告会でした。岐阜市北部コミュニティセンターにて、10時30分から3時30分までの長時間でしたが30人以上の参加者があり良い学習の場となりました。

午前中は今年一年の活動報告で(1)岐阜市の福祉タクシー券が福祉有償運送にも使えるようになった事についての岐阜市からの報告、県内では各務原市について二箇所目です。4月1日からのスタートで5箇所の福祉有償運送の事業者が岐阜市と契約をしました。

(2) 昨年9月の「バスに乗ろう！一緒にバスの体験乗車をしませんか？」

事前に岐阜バスに報告会への出席の依頼をしたところ承諾が得られ当日は2名の方の出席がありました。報告者だけでなく会場からも、車椅子でのバス乗車の実態や苦情、又事業者として期待をしているので責務を果たして欲しい等の意見が述べられ、岐阜バスより説明や謝罪等される場面などもありました。これまでも障害者のバスの乗車

の際に起こったトラブル等はメールや文書などでのやり取りはあったもののそれ以上の深まり等もみられず、これを機会に交通事業者の方々とも直接コミュニケーションを持ち常に実態を伝え真に移動困難者を含めた市民の足となるよう一緒に考える事が出来ると良いと思いました。

(3) 交通マネジメント、障害者等移動困難な人が公共交通機関等を利用して外出する際に安心安全に行けるよう事前に行き方や交通アクセス、目的地のバリアフリーの様子などについて調べ適切な方法を組み合わせ出かけた3つの事例報告です。「ランの館」「ソフトピア・ジャパン」「半田市・蔵の街」自分の行きたい所や観光地を目指しバスや電車に予約をして出かけました。場所にもよりますが、交通機関や駅、目的地、ルート等を選べば何とか行ってそれなりに楽しんで帰って来る事は可能な時代にはなりましたが、調べて報告を聞いていて「良くなった」と言うより「改めてまだまだ制約が多い」という感想を持ってしまいました。

(4) 昨年8月、世田谷・町田・新宿の交通情報センターの簡単な報告の後、午後からはDPI事務局長の尾上浩二さんの「障がい者福祉制度改革から見る今後の福祉交通のあり方」のテーマで講演を聞きました。子供の頃の入所施設での「買い物の日」、地域の学校へ通うようになってからの友達と買い物に出かけた事を交えた自己紹介から始まり、今の制度の中での障害者の移動と交通における問題点、現在進められている制度改革推進会議での議論、障害者権利条約の中でのあり方、差別禁止法、障害者基本法の抜本的改正の必要性と交通基本法の行方、ソーシャルインクルージョンの流れ等多義に渡って話されました。今、これからの障害者の生活と言うより障害者を含めた社会のありようが制度改革推進会議で話し合われています。様々な重要な法律の批准や制定がその前提にあります。どれ一つとっても大きく、理解する事さへ大変な作業ですが非常に重要な事ばかりです。移動や交通のあり方も確保されれば良いのではなく、常にどのような形で確保されるべきかを考え働きかけていかなければいけないと思いました。

尚、「移動困難者の移動の確保に対する研究会」は解散せず残すことになりました。個人的には、これから益々増え続ける移動困難者の問題に関心を寄せ活動する団体・個人と知り合えた事は良かった、三年間を通して少しばかりの課題整理と移動の確保のための様々な取り組みや実践を学びました。「研究会」としては今後の具体的な活動はまだ決まっていませんが、これからも学び続け、何か一つでも取り組んできたいと思っています。ご協力よろしく申し上げます。

「化学物質・エネルギー・たべもの・・・どれも私たちの生き方の問題ではないかと」

世界で初めての化学物質過敏症を描いたドキュメンタリー

いのちの林檎

木村秋則さんのリンゴがひとりの女性の命をすくった

- 【日にち】 2011年6月26日 日曜日
【場所】 ハートフルスクエア G 視聴覚室 (岐阜市橋本町 1-10-23)
【時間】 1回目 9:30~11:30 *化学物質過敏症の人とご家族
2回目 12:00~14:00
3回目 14:30~16:30
【協力券】 1000円 当日・前売りあり
【主催】 いのちの林檎上映実行委員会 (中村 080-8555-1234)
* 現時点で決定している事です。
* つっかいぼうでもチケットを扱います。ご連絡ください。

あらすじ

化学物質過敏症の早苗さんは、近所のゴルフ場の農薬散布で息ができなくなり、母と二人で呼吸できる場所を探して車で旅にでる。しかし農薬や排気ガスで発作を起こし、旅は困難を極める。二人が辿りついたのは標高千メートル地点でのテント生活。しかしそのテント生活も安全ではなかった。また大阪の入江さん一家の長男絃司さんと次男茂弘さんは、学校の無理解から重症の道のりをたどることになる

化学物質過敏症

「地球が危ない」「CO2削減だ」「昆虫が汚染されて絶滅種が増える」報道では毎日のように同じ言葉が繰り返され流されています。しかし危ないのは地球環境だけでしょうか。実は我々の身体も様々な化学物質に汚染され続けているのです。住んでいる家から、食べ物から、外を歩けば排気ガス、電車にのれば殺虫剤、煙草の煙、街路樹の農薬、しらずしらず化学物質を鼻から喉から皮膚から吸収し、身体の中に溜めこんでいます。そしてその蓄積が、ある日突然限界点に達した時、化学物質過敏症を発症します。

発症すると、つい昨日まで使っていた生活必需品が牙をむいて襲いかかってきます。合成洗剤、消臭スプレー、芳香剤、柔軟剤、化学物質の僅かなニオイも耐えられなくなり、頭痛や吐き気、呼吸困難などを引き起こしてしまう、そんな恐ろしい病気が、化学物質過敏症なのです。

いのちの林檎とは

弘前市の林檎農家 木村秋則さんの林檎、奇跡の林檎と呼ばれている。17年の歳月の末、無肥料無農薬で実った林檎。(以上、映画公式ホームページ)

連節バスがやってきた・・・

去る3月18日、岐阜市からの呼びかけで障害者を対象にした連節バスの試乗会に行ってきました。

二つの車輻が連結器でつながった全長18m、全幅2,55mのバスで、定員は130名、座席数は46台。大量輸送（Bus Rapid Transit）が目的のバスで、5月連休明けから「岐阜大学病院線」を走ります。

車体価格は一台8,000万円だそうです。今回は6,000万円の補助が出ていて、2台の導入です。日本では神奈川と千葉県で合計23台導入されていますが、首都圏外では初めてとの事です。

会場となった岐阜バスの柿ヶ瀬営業所に着くと他のバスに混じって二台のピカピカの赤い連節バスが停車しており、視覚障害者と車椅子障害者の方々が集まって見えました。岐阜バスからの説明を聞いた後、試乗を行ないました。



ノンステップでニールダウンするので乗降口はかなり低くなります。乗降口の部分に折りたたみ式のスロープがあり、これまでのように格納庫から出してきて車体にかける手間が無くとも早く簡単になりました。スロープにエッジはありませんでしたが広めなのであまりこわさを感じません。

車椅子での昇降以外はスロープは床に収まっているのですが、スロープに強度を持たせるためか厚みがあり、起こしてスロープにすると厚みの部分だけ窪みが出来、わずかな段差が出来ます。スロープを登りきった時に角をつぶした小さな段差が有ると車椅子の前輪に引っかかりつんのめりそうになるので少々危険だと思いました。

次は期待の固定です。車椅子の用の席は前の車輻の2席だけでした。話題のベンツ（ドイツ）製ならさぞかし簡単にしっかりと固定できる最新の装置があるのかもと楽しみにしていたのですが、これまでと同じベンチシートを跳ね上げた後、前輪と後輪をそれぞれベルトで固定し最後に引っ張って締めるものでした。シートベルトも従来と同

じ型式でしたが、ベルトの利用は乗客の自由なようで、運転手さんは「シートベルトは女の人は嫌がる人が多い、強制出来ないのでベルトはかけないことも多いがかけたほうが安全」と話してみえました。もう少し工夫があれば利用が上がるだろうと思います。輪留めは見当たりませんでした。

停車ボタンは直径7～8cm位の車椅子の絵の着いた丸いタッチパネルでベンチシートの下にありましたが触れるだけで光が点滅し、力もいらず分かりやすい。

車椅子の固定も済み、ドアを閉めていざ出発！にドアが閉まらないというトラブルが発生しました。運転手さん達の手動の操作で難なく出発しましたが、説明等のためドアを長く開いていたためにドア付近の温度が上がりセンサーが働き閉まらなかったようです。車椅子利用者の乗降で時間がかかりこれからも度々発生するのかと心配でしたが、第二陣の試乗の出発ではスムーズに閉まりホッとしました。

後ろの車輛の最後軸が駆動し前の車輛を押す仕組みなので前の車輛は振動も無く大変静かでした。会場を二周し降車しました。今日は車椅子の固定や解除に慣れている運転手さんなので大変スムーズで時間もさほど掛からず、いつもこうなら自分も、自分以外の乗客も運転手も負担を感じず利用できるのだろうと思いました。

さてこの連節バス、岐阜駅から大学と大学病院への朝の混雑の解消のための導入と言われていますが、混乱は朝の極限られた時間でしかなくそれ以外に大量輸送の必要性はあるのでしょうか。ましてや途中での停車は今の段階では警察の許可が下りずノンストップと言う使い勝手の悪さがあり、普通のバス2台の導入ではいけないのだろうかと言うのが率直な感想でした。それとも運転手が一人で済むという人件費の節約と補助金利用の経済面を重視した結果でしょうか。

車椅子を利用する人にとっては、車椅子席は一台の車輛にしかないので大量輸送の恩恵はありません。もっとも仮に4人の車椅子障害者が一時に利用したら固定に時間がかかりどれだけ発車が遅れるか・・・、本来の目的からはずれてしまうでしょうが。道路の広くない岐阜の街への導入の検討は実際に走ってではなくシュミレーションでした。本当に危険はないのだろうか、混乱は起きないかが気になるところです。ノンストップで無くなったらどうなのか、電車ではだめだったのかと色々思います。二両編成の珍しい綺麗なバスは楽しくないとは思わないし、観光に一役買う(かな?)目的もあるのかも知れないけれど、更なる高齢社会で買い物難民を始めとする様々な〇〇難民が増える中での公共交通の在り様を考える時、地域の必要な人への足の確保にとって連節バスはどれだけの必然性があるのかと思いました。

第23回大カルタ取り大会を開催しました

3月27日、岐阜市の岐阜メモリアルセンターで第23回大カルタ取り大会を開催しました。当日は岐阜市や名古屋市などから参加者・スタッフ合わせて約150名が参加し、大人も子どもも一緒になって心地よい汗を流しました。上位入賞をめざし本気モードで絵札に向かってガンガン車椅子を走らせる人、久しぶりに会うお友達とのんびり語り合う人、競技そっちのけでスタッフの学生さんが気になっちゃう人(笑)…と、皆さん思い思いのスタイルで一日過ごされていました。

お昼休みには、岐阜聖徳学園大学社会福祉サークルの企画によるじゃんけんを使った楽しいゲームをしました。

また、第1回大会からの好評の抹茶コーナーでは、ボランティアの皆さんが立てられたおいしいお茶でひと息つきながら、楽しそうに談笑する参加者の姿も見受けられました。

当日、会場では、3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々を支援する募金を募りました。心温まるご寄付は、ゆめ風基金を通じて被災された方々の支援に役立たせていただきます。

おかげさまで今回も盛況のうちに大会を終えることができました。参加者の皆さん、ご協力くださった皆様、そしてご後援をいただきました各団体様、本当にありがとうございました！なお次回は、来年3月31日(土)に開催の予定です。日にちが近づいてきたら通信やWEBサイトなどでお知らせします。ご参加・ご協力いただければ幸いです。(後藤)

重度訪問介護従業者養成研修 基礎及び上級研修課程(予定)

20時間の研修と3時間の在宅実習で「重度訪問介護」のヘルパー資格が取れます。

見守りを含めた長時間の介護の必要な障害者に認められ、身体介護、家事援助、移動など必要に応じたサービスを一体的に提供することでその人らしい生活を築くことの支援が出来ます。

「もっと沢山のヘルパーさんがいたら障害を持つ多くの仲間が地域で自分らしく生きていけるのに・・・」といつも残念に思っています。なぜか在宅の仕事は施設と比べて人気がないようですが、一人ひとりの掛け替えのない人生を大切にするととてもやりがいのある仕事です!

このたびにつっかいぼうでは久々にヘルパー養成研修を計画しています。

資格を取って障害を持つ人の生活に関わってみませんか。仕事や学校に行きながらでも可能です。受講料も大変お値打ちです。お誘いあわせて、ご応募お待ちしております。

日時 平成23年 6月25日(土) 9:30~16:10

6月26日(日) 10:00~16:10

7月 3日(土) (演習)

7月 4日(日)~8月24日までの1日3時間 (実習)

場所 つっかいぼう事務所、その他 受講料 10,000円

* 詳細は未定です。担当石井まで、お問い合わせ下さい。

自己紹介 (3年目に起きた思いつき)

…それは何気ない一言から始まりました。まさにビックリです。

吉田さん：「小川くん、一つ原稿を書いてくれない？」

小川：「あ、はい。何を書けば良いですかね？」

吉田さん：「自己紹介 (満面の笑みで)」

小川：「えっっっっっっ？？？？」



————— 以下省略 (笑) —————

入社して3年目。よもやこのタイミングで自己紹介をするとは思っていませんでしたが、仰せつかった任務 (マンガの読み過ぎですかね)、果たしたいと思います。かなりくだけた表現使っていますが、お気になさらず。それではどうぞ(●´▽`●)ノ・*:・

名前：小川 大 (オガワ ダイ)

○小1で漢字が書けるようになりました (笑) 総画9画。覚えて下さいね (^ ^)

生年月日：1986年5月27日

○今年で25歳になります。プレゼント絶賛受付中☆同時に彼女も… (笑)

身長：173cm

体重：??kg

○意外とあるんですよ☆

└(・ω・;)┘ オ・・・オモイ...

趣味：吹奏楽、読書 (小説、マンガなんでも)

○サクソスを演奏しています。機会があれば…かな？本を読む事も好きです。

好きな…：チョコッパ、チョコレート、特撮ヒーロー、コメディ番組、桜 etc

○…(ノ 口 ` @) アイター そんな目で見ないで下さいっっっっっ (汗)

嫌いな…：動植物 (桜以外)、乳製品、ホラー、運動、高いところ etc

○…(´ - ω -) =3 そんながっかりした目で見ないで下さいっっっっ (泣)

抱負なんぞ…：まだまだ力量不足の自分ではありますが、ヘルパーをしていく中で自分らしさを発揮していけるように勤めていきます。

…こんなところでしょうか (笑) このページを見たら分かると思いますが、基本的に馬鹿げた人間です。面白いこと、楽しいこと、バカ騒ぎが出来ることが好きな変な奴です。どうぞよろしくお願いします。

おがわ だい

新年度になりました。会費納入をお願いします。

これまで会員としてご協力くださった皆様、今年度も引き続きご支援をお願いします。
また新たに会員となり、共につかいぼうを支えて下さい。

- 正会員 本会の活動に議決権を持って参加していただきます
- 賛助会員 活動・イベントへの参加や経済的な援助をしていただきます

■ 会員は正会員、賛助会員とも 一口1,000円 / 年
(出来れば二口以上お願い致します)

■ 振込先 十六銀行岐阜中央支店 普通 1382822
特定非営利活動法人 障害者自立センターつかいぼう
理事長 吉田朱美

編 集 後 記

3月11日は県庁の大会議室で研修を受けていて、頭がフワフワするような体が動いているような気持ち悪さがあり周りを見ると誰もが周りを見回して、やがて誰かが「地震!」と言いました。長い横揺れは不気味で、これから大きな揺れが来るのかそれともどこか遠くで物凄い大きな地震が起きているんじゃないか不安でした。携帯で見たマグニチュードは見たこともない数字で、三陸沖の津波が大きくないことを祈ってました。しかしその日から続々と入る情報は信じられない痛ましい事実が更新され続け何とも言葉では言いようありません。地震と津波、更に原子力発電所の放射能漏れです。スリーマイルを超えチェルノブイリにも並ぶのではと言われる大変な事故が起っています。原発の安全性があれほど信じられていたのは正直ショックでした。推進したい国や会社は私益国益?のため目を瞑っていて危険性には言及しないのかと想像しますが、そういう国の中では原発に対する正しい情報は教えられないのでしょうか。かといって入手できない障害はなく(と思う)電気はあって当たり前で使いたい放題の生活を享受してきた一人一人の私です。一つは無知と無関心で、これまでも二回原爆投下によって被爆した日本はまた今度は自らで被爆してしまったと言ったら言い過ぎでしょうか。「福島のごみは持ってきてほしくない」という声が上がっているようです。今に被爆している人は来てほしくないに変わらなければいいと願います。軍事基地は来てほしくない、障害者は自分の会社や学校に来てほしくないを通じるものでしょうか。ギリギリの時こそ「共に生きる」考えないといけないですね。だけど原発はもうやめようよ。ほんとにもうやめよう。3割を原子力に頼っているのなら3割を節電と別の安全なエネルギーに切り替えることを真剣に考えようよ。命と引き換えに出来るものなど何もないのだから。今は何よりも被災した人たちへの支援と復興が最優先だけど、同じ間違いは犯さないで欲しい。

これを書いた翌日にレベル7に上がりました。国の対応に緩慢さや危機感のなさを感じるのは私だけでしょうか。古い本ですが「風が吹くとき」「まだ、まにあうのなら」「とびうおのぼうやはびょうきです」、どれも原爆をテーマにした本です。読んでみて下さい。(文責 吉田)